

区民と区長のダイアログカフェ

令和 7 年 3 月 1 9 日

区民と区長のダイアログカフェ

令和7年3月19日

【広報課長】

これから区民と区長のダイアログカフェを始めさせていただきます。

今回のテーマは「活力と魅力あふれる、住み続けたいまちを創っていくためには」ということで、ダイアログカフェを始めたいと思います。よろしくお願いします。

では、最初にまず成澤区長のほうからお願いします。

【区長】

では、どうぞよろしくお願いいたします。

もうすぐ佐々木朗希が投げ、大谷がすごい日にこんな会をセットしたところ、テレビを見ずにご参加されて、まずは感謝をしたいと思います。

フラットに話せる場が大切だということで、毎年2回、こういった企画を行っていますけれども、本日の会場をお貸しいただいたお店の方もかつての参加者。この会場で二度目ですけれども、地域のお店でこういった地域の方との話し合いというのは続けています。

区長対話というと物申したいという人たちがかつては多かったんですが、それはもう今はほかにいろんな方法があるので、そうじゃなくて、共通のゴールを目指して共に間合いを詰めていけるような対話になればありがたいなと思いますので、皆さんのアイディアを期待しています。限られた時間ですが、どうぞよろしくお願いします。

【広報課長】

それでは始める前に、幾つか説明をいたします。

まず、本事業はファシリテーターの進行のもと、進めてまいります。ファシリテーターは、チヒロさんになります。よろしくお願いします。

チヒロさんは、トークイベントである文京区100人カイギ等の多数のイベントで文京区内の主催、最近ではお寺マルシェなどを開催してご活躍されております。いろいろイベントでお会いになった方もいらっしゃるかもしれませんが、改めてよろしくお願いいたします。

先に区長に言われてしまいましたが、この会場も実は2回目です。調べてみたところ平成26年11月以来だそうでございます。10年以上ぐらい前に会場としてご協力をいただいております。

ここから何点か注意事項です。皆さんも過去の実施回の会議録をご覧いただいたかもしれま

せんが、毎回の要点記録ということで会議録を作成する関係で録音させていただきますので、よろしくお願いします。それから写真についても顔が映らないようにですが記録用として撮らせていただきますので、支障がある方は後でお申し出ください。

それでは、早速ですが、ここからはファシリテーターに進行をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

【ファシリテーター】

はい。皆さんこんばんは。チヒロと申します。

この会では、皆さんあだ名で呼び合いたいと思っておりますので、チヒロさんという形でよろしくお願いします。なので、区長さんのあだ名もピロリンです。

では、今から始めさせていただきたいと思います。よろしくお願いします。

今日のお題は、「活力と魅力あふれる、住み続けたくなるまちを創っていくためには」ということで、皆さんとピロリンとみんなで対話をしながらテーマに沿ったアイディアを出していくという対話の会となっております。

この後の段取りとしましては、まず、一人ずつ簡単に、いただいていたアイディアシートのことをお名前とともに話していただきたいと思っております。その後、お時間の関係で全てを一つ一つ掘り下げていくということではできないので、皆さんが興味を持ったことが多いものについて掘り下げていこうというふうに考えておりますので、もしちょっと取り上げられなかったとしてもあんまりがっかりなさないで、ご発言は議事録として残りますので、その部分で区のほうに伝わりますので、よろしくお願いいたします。

何かご不明な点とかはありますでしょうか。

無しということではよろしいでしょうか。それでは進めてまいります。

先ほどご案内がありましたが、記録用に録音をしていますので、発言をされたいときには手を挙げていただいて、その後、私が発言者を当てさせていただきます。

皆さんにお話していただきたいという理由で、一人1分を目安にお話していただきたくて、ちょっと長い場合には、すみません、ちょっといいですかという感じでお声がけすることにはなると思いますが、皆さんで話を和やかにしていくという趣旨ですので、ご了承をお願いいたします。

誰かの発言に批判や否定はできるだけせずに、そのアイディアを膨らませる方向で、それいいね、そういう意見もあるのかというような感じで、和やかに進めていけたらいいなと思います。

それでは、自己紹介タイムとアイデアシートの内容を発表いただくということで、よろしいでしょうかね。まず、〇〇さん、いいですかね。

【参加者】

何をどうすればいいのか分からないですけど、じゃあ最初にします。

【ファシリテーター】

じゃあ、最初によろしく願いいたします。

【参加者】

私のアイデアの名称は、「ふたつのはみ禁計画」という紙です。

多分、子どもたちから高齢者まで安心、安全のきらきらした何か未来予想図みたいなことを書いたほうがいいんだろうなとは思ったんですけども、毎日、住んでいるところも職場も文京区内ですので、通勤とかお休みの日の買物とかで毎日毎日、普通に思っていることをやっぱりこの機会だから言いたいなと思って書きました。

私は、年々文京区内のたばこと車のマナーが悪くなってきているなと思っているので、職場のみんなともそういう話をするんですけども、他区から来ている方からも、ちょっと文京区どうなっているのという話を耳にしますし、私自身もそれを毎日感じます。お子さんを乗せた自転車の方とかそういう方たちも危険な目に遭っているので、きらきらしたまちづくり以前に、そこをもうちょっとちゃんとできないだろうかというふうに思いまして、アイデアとして出させていただきました。よろしく願いいたします。

【ファシリテーター】

ありがとうございます。きらきらよりも危険が気になる。

【参加者】

危険とか不快感とか。私はぜんそくで結構、入退院したりした経験がありましたので、歩きたばこをされるのがすごく嫌なんですけれども。

それで、職場で他区から通勤している女性も、文京シビックセンターの前に喫煙所があるんですけど、あそこの煙でやっぱり私以外にも嫌な人がいるんだなというふうに思いました。

【ファシリテーター】

ありがとうございます。

時計回りに、〇〇さんお願いいたします。

【参加者】

タイトルは、「ふみのみやこ回遊圏」というのにしたんですけど、住み続けたくなるとい

うことは住んでいて何かしらお困り事が和らいだり、やりたいことができたりということが回っていくことじゃないかと思って、実際そういう場は存在するけど気づけなかったり、それから気づいてもなかなか外から扉を開けて中に入るには怖かったりとか、入ったら何かしらに巻き込まれちゃうんじゃないかという不安があったりというのがとても多いと、いろんな場で感じているので、そういうハードルを下げて、どこかに関わったら、例えばこういうお店に関わったらそこをきっかけにその人が安心な場を紹介してくれるというような形で、どんどんつながっていくような、そういう相互関係というか、ネットワークを構築していくということを経験としてこれを書きました。

以上です。

【ファシリテーター】

ありがとうございます。楽しいところがたくさんあるから、もっとぐるぐる回れるようにという感じですね。

【参加者】

そうそう。

【ファシリテーター】

どうもありがとうございます。続きまして、〇〇さんお願いします。

【参加者】

私は「あなたの声の届く区政A I」という、いかにもエンジニアが作ったようなアイディアシートです。

【ファシリテーター】

エンジニアさんですか。

【参加者】

そうですね。私、今、文京区に住み始めて10年になるんですけども、先日の東京都知事選で安野貴博さんがブロードリスニング（多様な情報源からを集約した膨大な意見をA Iを使って分類・分析し、分かりやすくまとめる）という概念で、とあるプラットフォームを使っていろんな人からのアイディアを取り入れて検討をしていくという。最近A Iがすごく発達してきているので、今までだったら一遍にワァーと区民の声とかを受けても、人間がそれをさばき切れないみたいなのところがあったり、あと何かノイズみたいな情報がたくさん入ってきちゃっていて、それをどうしようということになっていたのが、今、生成A Iを使っていくとその辺りがフィルタリング、余計なノイズであったりとかというのを人間がさばかなくてもA Iであ

る程度さばいていけるということになるので、何ていうか、ちゃんと真つ当な意見というものを吸い寄せやすくなっているというのが最近の流れとしてありました。

私は中小企業向けに、いろんな生成A IとかD Xの支援をさせていただいているんですけども、やっぱりスキルとかがそんなになくても、ちょっとした支援ですぐに使えるようになっていくということがあるので、こういったことをできたらいいかなというふうにちょっと書かせていただきました。

区民としては、やっぱり自分が市民社会の一員として、ここに住んで自分の声がちゃんと届いているなという実感を得られれば得られるほど、じゃあ次も声を届けようかなというふうになるかと思えますので、いい好循環のサイクルを、どうせ言ったってしょうがないみたいな感じじゃなくて、言ったら分かってもらえるんだ、言ったら通じているんだみたいなところを実感していただけるために、こういうものを用意したらいいかなと思って書かせていただきました。

以上です。

【ファシリテーター】

ありがとうございます。

〇〇さん、お願いします。

【参加者】

ちょっと私のはアイデアといってもメモ程度で申し訳ないんですけども。

私は、どちらかといえば、このテーマを考えたときに、まず活力と魅力あるというのが、やっぱりどういう生活をされるかによって、年代によって、それを魅力と感ずるか感ずかないかというのが分かりますし、じゃあ住み続けたいって思うにも、やっぱり家族がいるいないだとか、住宅を持っている持っていないだとかという部分で、結構変わってくるんじゃないかなと思ったので、まず自分自身がそうなので、まず单身の方なら、じゃあどう考えたら魅力だったり住み続けたくなるのかなというのでメモ程度に書いたものなんですけれど。

まず、单身の中年層というのは多分、一番支援が行かないところなんですよ。それが普通に生活しているからという理由でもあると思いますけれど、これが高齢者になってくると、それなりにどういう状態でもある程度支援があるけれど、そこに向かっていく中年層というか、やっぱり普通に生活していて仕事もあってという、絶対どこでも支援が必要がないということもあるんですけど、そこにつながる何か道筋があれば、ここで生活していると高齢者になっていく過程においても安心だなと思って住み続けられるんじゃないかという意見が一つ。

あとは、住みたい魅力と考えたときに、若い人がやっぱり、多分この千石の辺りもかなり高齢者率が高いという部分で見たと思うので、例えばそういうところだと活力とか魅力というものが若干欠けると思うんです。特に千石、私、便利だから住んでいるので、そこは便利なのが魅力なんですけども、じゃあ果たして住みたいというところにみんなに合致するかというところじゃないのかなと思って、そこに活力とか本当に外から魅力があるように見えるには、やっぱりもうちょっと若い人が来て、例えば大学とかありますから、そういう方が一旦、親元を離れてこの辺で生活している人が、むしろここにずっと居続ける、就職しても居続けられるというような、何か魅力的なそういうまちになれば、何かいいんじゃないかなと思って、そういうところに例えばよく若い人が訪れるようなまちとかだと、何かお店を出したりとか、カフェ巡りができたりとか、そういうものに対して、ここに若い人がいてくればこういう支援がビジネス的になりますとか、何かそういうことがあれば若い人でも今後も住み続けていただけるんじゃないかと、住みたいと思うんじゃないかなというのをちょっと思いまして、どちらかというと私の関心にちょっと焦点を当てて考えてまいりました。

以上です。

【ファシリテーター】

ありがとうございます。大学はたくさんありますものね。

【参加者】

お一人暮らしされている方が学生さんでいらっしゃるでしょうから、その方がむしろ住み続けてくれたほうが長期でいけるので、まちにとってはいいんじゃないかなと思いますよね。

【ファシリテーター】

通うだけでなく、暮らす楽しさみたいなね。

【参加者】

そうですね。就職してもやっぱり便利なので、どこでもここだったら通えるはずなんですよ。

なので、そこをもっと長期的に考えられるような何かがあればいいのかなと思いました。

【ファシリテーター】

〇〇さん、ありがとうございます。

続きまして、〇〇さんお願いいたします。

【参加者】

今年24歳で、文京区に来てまだ2年目ということで、ちょっとその来たばかりみたいな

感じの観点から、お話をさせていただきたいと思います。

アイデア名は「文京プレミアムイノベーションタウン」というもので、文字数が多くなっちゃっているんですけども、2個目と3個目は生成A Iに考えてもらいました。アイデア名称も生成A Iに考えてもらったので、1個目はちょっと自分で実現可能性が高そうなもので、ちょっと考えさせていただきました。

まず前提として、僕、この話し合いの場を知ったのが公式L I N Eからのお知らせで知りました。

【ファシリテーター】

文京区の公式ですか。

【参加者】

そうですね。それも最近登録して、すごくいっぱい発信しているというのをそこで知りました。けど、そもそもL I N E登録しないと駄目じゃんみたいな感じで思ったので、ちょっとそこからの発想なんですけれども。

1個目が最近、東京都アプリというのがリリースされたんですけども、こういったものが東京ドームシティって結構、文京区の中では目当てというか、かなり集客力が多いというものがあるので、こういったライブとかスポーツ観戦とかいろいろやっていると思うんですけども、こういったのに年に1回使える割引チケットなんかを東京都公式アプリで配布したらどうかなって。この東京都公式アプリってそういった区の活動に参加するとポイントがもらえてそのポイントと交換できるみたいな感じのシステムになっているので。

【ファシリテーター】

そういうのがあるんですか。

【参加者】

最近、たしかリリースされました。それを結びつけることによって自発的な、ちょっと仮説的ではあるんですけども、それにつなげていくことができるんじゃないかなというので考えました。

【ファシリテーター】

区のポイント。

【参加者】

そうですね。それでマイナンバーカードと結びつけて区民として証明するというので、できるんじゃないかなというのをちょっと考えました。

二つ目と三つ目は、やっぱり東京ドームシティ周辺で、何かもうちょっと最新のテクノロジーを駆使したもので若者を集めてみませんかみたいな感じで。

【ファシリテーター】

東京ドームに若者を集める。

【参加者】

そうです。あと、文化と芸術のインキュベーションセンターみたいなのを何か開催しませんかみたいな感じで生成AIに考えていただきました。

これで若者とか観光客が集まりやすくなるかもしれないんですけども、僕、文京区に住んでみて、やっぱり治安の良さとか犯罪件数の低さというのが魅力的な部分ではあるなとは思っているんで、ちょっと集客と治安を両立するのは難しいかもしれないですけど、そういった感じで考えさせていただきました。

以上になります。

【ファシリテーター】

〇〇さん、ありがとうございます。個人的にはポイント集めが好きなので気になります。

【参加者】

そうですね。刺さる人には刺さるかなと思います。活動することによって、そういう利益が還元できればいいのかなというのが。

【ファシリテーター】

歩き回って何かもらえたらうれしいです。ただでさえ普段から歩き回っているんで。

分かりました、ありがとうございます。

では、〇〇さんお願いします。

【参加者】

〇〇と申します。アイディアの名称が「文京区で省エネ2倍・再エネ3倍」です。

背景としましては、気候変動の被害がやはり文京区でもすごく感じられるようになってきていると思います。活力と魅力あふれるまちにしていくなめには、この夏、外に出るのも嫌だと、外に出るたびにもう熱中症で困るとか。あと、子どもたちは最近、もう暑過ぎて体育の授業、外に出られない。プールの授業ができない。昔はちょっと気温が上がらないからプールの授業できないねという日があったのに、今はもう暑過ぎてできないというふうになってきているというふうに思います。

それが、このまま化石燃料を使い続けて、どんどん地球温暖化がさらに進んでいくと、まず

まず大変なことになるかなというふうに思います。

そのような中、最近の国連会議で省エネルギーを2倍に再生可能エネルギーを3倍にしよう、2030年までにそうしようという国際合意ができて、文京区でもピロリンの施政方針演説の中で、区の施設に再生可能エネルギーを100%入れていこうというような話があったと思うんですけども、民間でも、私は大学でちょっと接点があるものですから大学を含めて、そういった様々な施設で再生可能エネルギーの導入が進むといいなと思いますし、その前提で断熱性能をもっといろんな建物で高めていけたらいいなと思っていました。

ある意味吹きさらしの中でたき火に当たっているような状態だと、本当にエネルギー効率がよくないので、特に子どもたちはすごい猛暑の中で断熱性能のあんまりよろしくない教室とかで学んでいたりとかして、授業に集中できないような大変な状況ではあると思うんです。それを何とかしてあげなきゃいけないんじゃないかと。私も子どもの頃、何で職員室に行ったら職員室だけクーラーが効いていて涼しいんだろうと思って。今、思えば、あれはちょっと子どもたちの人権を軽視しているんじゃないかなという感じがするんですけども、断熱とか省エネとかを頑張るというのと、あと再生可能エネルギーの導入を頑張っていくということが文京区で取り組めたらいいなというふうに思うところです。

再生可能エネルギー設備を自分で入れるということが難しい方もたくさんいらっしゃると思うんです。そういう場合は、契約する電力会社の電力プランを再生可能エネルギー100%の電力プランですよというのが最近、売り出されていますので、そういうのを選ぶ人がどんどん増えていけば、化石燃料をやめてCO₂を減らしていこうという波がつかれるのかなというふうに思っています。

以上です。

【ファシリテーター】

ありがとうございます。再生可能エネルギー。

【参加者】

あと省エネとか断熱とかですね。何か電気自動車とかが増えてガソリン車がなくなれば、さっきおっしゃっていたぜんそくとか呼吸器疾患の方なんかにもすごく、空気がきれいになっていいところもあるかなと思います。

【ファシリテーター】

ありがとうございます。

今、皆さんのお話を聞いて、私、キーワードを書き出してみたんですけども、もっとこう

いうことを言いたかったのにというのが、足りていないよというのがあったら話していただいで。

【参加者】

あります。今、お話聞いている。

【ファシリテーター】

ふせんに書いて貼ってください。

【参加者】

選挙なんかでもいつもそうですけど、子育て世代をと、子どもたちに優しいってその真ん中の世代の私たち、無視されていないかという。そこは最近思うようになりました。

私も文京区、長いですけども、結構アップダウンもあるし、若者をもっとっておっしゃっていたけれど、それにちょっと歯向かってしまうようですけれど、だんだんショップが自分の年齢層では楽しめないショップばかりになってきてしまっていて入りたいお店がないんです。飲食店もお洋服のお店もそうですけど。それで、私は文京区を逆にしようかって思うぐらい。このまま年を取っていったらこのまちに住めないんじゃないかな、楽しくないんじゃないかなとか、行けるところがなくなっちゃう。銭湯もどんどん潰れちゃいますし、好きだったものがどんどん減っていつてしまっているのをこの10年ぐらいで感じますので、このまま例えば60代、70代になって何を楽しいと思えるようになるだろうという、今ちょうどその分岐点にきていますので、その真ん中世代がもっと楽しめる、子育てやと終わったけど親の介護まった中だとか。

【ファシリテーター】

真ん中世代が、活力と魅力あふれる住み続けたいまち。

【参加者】

真ん中世代って書けばいいですか。

【ファシリテーター】

いいですね、柔らかいですね。

では、続きまして、先ほどお話ししましたとおり今出ている中から一つ決めまして深めていきたいと思っております。見えますか、皆さん。この中で、このメンバーで活力と魅力あふれる住み続けたいまちを創っていくためにできることということに関して、これがいいんじゃないかなというようなものがあたら。

はい、どうぞ。〇〇さん。

【参加者】

声を届ける。

【ファシリテーター】

声を届ける、これがいいんじゃないかと。

【参加者】

はい。

【ファシリテーター】

どうでしょう、いかがですか。別に自分推しのことでも大丈夫ですし、これいいなということをもとまったら、そこについてみんなで話してみたいなと思っていますので。

【参加者】

ちょっと一つだっておっしゃいましたけれど、結構カテゴリー的に一緒にできるようなものとかがあるかなと思いました。階層というか、レイヤーの違いかなと。

例えば、声を届けるみたいなのってすごい根っこのインフラみたいところで、そこが土台にあって、その上に何かに乗っかってくるみたいな感じになるのかなと思いましたので、決して一つに何かこれって絶対決めなきゃいけないってこともないのかなというふうに思いました。声を届けるのに公式LINEをのつけるとか区のポイントをのつけるとか中高年層の支援とか、これとこれとこれってまとまるよねみたいなふうにはできるのかなと思いました。

【ファシリテーター】

私もそう思います。 他の方はどうですか。

はい、〇〇さん。

【参加者】

ちょっと質問っぽいもので、たしかアイディアシートの中に、自分たちでできるとか、そういう縛りが入っていたような気がして、そこがとても書きづらくなっちゃった。

【ファシリテーター】

そうですね。みんなで自分ごととしてつくっていくというのが今回の会なので、ちょっと自分でできそうなこと。なおかつ活力という部分で選定していきたいと思います。

要望じゃなく、自分たちでできることという感じですね。

【参加者】

一方でちょっと自分のほうに引っ張っちゃうんですけど、やはり中間層じゃなくてもっと上の層というところも、アナログ層の人を見ていて、やっぱりそういうツール頼みのところは

まずいんじゃないかなって、難しいんじゃないかなというのがあって、あえて口コミとか人の信頼性というものを重視するほうに私は向いています。

【ファシリテーター】

全年齢域ができそうなこと。

【参加者】

ちょっと欲張りなんですけれど、いろんなツールがあっていいはずで、それを組み合わせて得意なものを使えばいいけれど、でもベースにはやはりその人と人のつながりの暖かみを使うべきじゃないかなと。人の不安とかに対応するためには、そこが大事なのかというのは思うので、何かその辺は要素として考えたいなと思います。

【ファシリテーター】

ありがとうございます。そうですね、区民が年齢域関係なく赤ちゃんからお年寄りまでいるので、しっかり考えていきたいなって。

【参加者】

ちょっとさっきの話題で年齢層の話題もあったけれど、例えば暮らし方として独居なのか、ファミリーなのか、いろんな切り方は対象としてあるんじゃないかなというのは今、思います。

【参加者】

住み方もありますよね。マンションなのか戸建てなのか。

【参加者】

そうですね、それは大きいですね。

【ファシリテーター】

いろんな人が住んでいますからね。運転する方なのか、自転車なのかとか、電車を使うのかとかでもやっぱり目線は違ってくるし。

【参加者】

そうですね。

【ファシリテーター】

はい、〇〇さん。

【参加者】

もう全部、興味深いなと思って聞いていたんですけれども、先ほどの〇〇さんのお話にもちよっと関連するかもしれないんですが、例えば車、たばこの話とか私、本当にそうだなと感じることが多くて、自転車レーンを走ろうとすると、自転車レーンに止まっている自動車がすご

く多くて、車道に大きくはみ出すか歩道で行くかしかないのかなと思うことが非常に多くて、どうにかならないかなというふうにも思ったので、すごく共感しながら話を聞いていたんですけど、さっきの〇〇さんのお話だと、この場では、だから自転車レーンをどうにかするというのはいち区民にはできないからちょっと難しいということになるんでしょうか。あるいは、それを何とかしてくださいとお願いするということは区民にもできることだから、そういうふうに置き換えたら別に、もうこれは今日話すのやめましょうというふうに言わなくても別にいいんじゃないかなという感じも一方ではしたんですが、どうなんだろうという質問ですね。

【ファシリテーター】

これはですね、こうしたらいいんじゃないかということは、要望として受け付ける場所が区にあるんですね。

【区長】

区民の声ですね。区民の声というご意見、ご要望を承るものがホームページにございますので。

【ファシリテーター】

なので、今日はちょっとこの中でできそうなことということに限定してお話ししていきたいと思います。

となると、やっぱりアナログとかなのかなというふうに私は感じたんですけども、いかがですかね、皆さん。私たちができそうな、できそうな人がいますけれど。

【参加者】

アナログじゃなくてもいい。むしろアナログじゃない方が関わりやすいというのは、ツールが使える人はそういうふうを感じるので、毎回毎回アナログだとむしろ面倒というのは正直ありますね。なので、そのあんばいをうまく、やっぱり誰を対象にしているかによって、その辺のコミュニケーションの方法というのは使い分けたほうが、みんなが居心地がよいということになるんじゃないかなと思いました。

【ファシリテーター】

活力と魅力にあふれる。どうでしょうね、〇〇さん。

【参加者】

すみません。デジタルかアナログかというのは、別にそれぞれ使える人、使いたい人、用途別にそれぞれ適切な場面とかがあるとは思っているので、別に二者択一で考える必要はないのかなと思うんですけども、確かに文京区のLINEとかそういうデジタルツールがあるけど、そう

いう人と人が触れ合える場がちょっとあるといいな。しかも、中年の世代の人たちはそういうところから漏れがちなんじゃないかなというところは確かに思い当たるところがすごくあるなというふうに思ったので、何かそういう人がつながれて、何か楽しめるような場があるということはいんじゃないかなという感じがしたんですが。

ただ、いち区民としてそういう場をどういうふうにつくっていいかみたいなことを考えると、特段すごく立派なお屋敷を持っているわけでもなく、解放できるスペースもなく、どういうふうなやり方ができるのかなということはちょっと考えてしまうところがありますかね。

何か気候変動とか再生可能エネルギーとかそういう自分のテーマのところだと、例えば区民の方と一緒に何かシビックセンターを借りて集まりとか勉強会とかセミナーみたいなそういうのをやったりするみたいなことはしたことがあるんですけども、そういう世代の方に届くような形で居場所をつくるようにするというのは、なかなかいち区民としてどうしたらいいでしょう。

【参加者】

〇〇さんにご質問なんですけど、今の話というのはやっぱり関わりとかつながりとか居場所みたいなところになっていると思うんですけど、この〇〇さんの提案されたこのイメージというのは、これは具体的にどういう形でこれをつなげるというイメージで作ったんですか。

【参加者】

二つ、私にとってイメージがあります。一つは、多分チヒロさんもそういうタイプなんですけれど、いろんな場に首を突っ込んでという変な言い方だね。参加して、そこでもすごく中心的に活躍している人というのは結構いるわけです。やっぱりそういう人を増やしていったら、ここで知り合えば、その人はアレもコレもソレも知っている。だから紹介できるよ。あなたにはここが向いている、相談すれば、だったらこっちかなというふうに行くという。

そのキーパーソンがさらにつながっていれば、自分が知らなくてもほかのキーパーソンにつないでそこから行くという形でどんどん、その信頼した人の紹介という形でつないでいくというパターンが一つです。

もう一つが、これは全くちょっとイメージが変わる例なんですけれど、私、大学時代に不思議なサークルに入っていて、もともとテニスが好きでテニスサークルに入ったはずだったんですけど、スポーツが7種目もあるサークルだったんですね。テニスもあれば、サッカーもあれば、バドミントンもあれば、というサークルに入っていて、それで1個という形を取っているから。自分はテニスのサークルに入ったんだけど気が向いたらバドミントンもでき

るし、気が向いたら卓球もできるということができて、お互いに交流して、ふだんは全くテニスだけで活動しているんですけど、どんどんそうやって同じ仲間ということが安心になっているから参加できちゃうんですね。気軽に。それでどんどん増えていく。そういうチームになっているような、ここに参加したら自動的にあなたはここ全部、自由に入れますと。やっぱり共通メンバーもいますというような見せ方というのものもあるかなと。その二通りをイメージしています。

【ファシリテーター】

何ていうんでしょう、コミュニティ。

【参加者】

そうですね。コミュニティ群でまた一つの巨大コミュニティをつくっているようなイメージで。それで言ってみれば、文京区の全体が、一つの巨大コミュニティとして、この中は安心安全の場だよというようなイメージを作り上げていくのが最終的な理想像かと思っています。

【ファシリテーター】

その中でみんなでぐるぐる活発に楽しく、活力と魅力あふれるまちになるという感じですね。

【参加者】

もう一個だけ。サークル的なイメージをちょっといろいろ話しちゃったけれど、それは商店でもいいでしょうし、そうすると気に入ったお店に行く。そこから、例えば、学生さんだとさっきの話もあったように通うだけというので終わっちゃうところ、お店に行くパターンがあるでしょうから、そのお店で仲よくなった人が何かその人の趣味に合うようなものを紹介するかという形になっていたり、ちょっと困り事があったらその困り事を解決するような。私、不登校の親という集まりにも関わり始めたんですけど、そういう形のものだったりを紹介してくれるという、そういうやっぱり信頼できる人が、何かしら解決だったり楽しみだったりというものを紹介していくというようなネットワークが居心地いいです。

【ファシリテーター】

ありがとうございます。

はい、どうぞ。〇〇さん。

【参加者】

はい、ありがとうございます。

自分の発言というより、〇〇さんにご質問なんですが、今、話に出ているコミュニティとかつながり、居場所をつくる系の話が出てきていますけれども、文京区に住み始めてまだ2年ぐ

らいとおっしゃる〇〇さんの目から見て、何か文京区って居場所とかがつながりとか、そういうのに何かアクセスしやすいところになっているのでしょうかというのと、あと、そもそも〇〇さんみたいな若い世代の方がそういうニーズというか、こういうことをしたいなみたいな気持ちを持っている方はいらっしゃるのでしょうか。

といいますのが、私が接している学生さんとかの中には、こういってはちょっと、特定の誰かということではないんですけども、年配の方と接すると、何か頭ごなしに、こうしろ、ああしろ、これはするな、みたいなふうに言われたりとか、特に女性だと、女性で若いというだけですがごく下に見られるみたいな経験を持っている学生さんが結構いて、それに問題意識を持っている方が多いと思うんです。だから、そういういろんな世代が集まるようにしようというふうな場を考えても、結局若い世代の人が居心地よく参加を続ける、魅力あふれる、居続けたくなるような場に必ずしもならないということもちろほら聞くんですよ。

なので、ちょっと〇〇さん視点で、何かそういう若い世代の人にとってどういうふうに見えたのかなというのを質問したいと思います。

以上です。

【参加者】

まず若者から見て、そういう集まりがあるということ自体の情報が入ってこないというのが、そもそものところであるかなと思います。なので、僕も通りすがりに何か掲示板に貼ってあるのを見て、こういうのやっているんだぐらいでしか、本当に情報が入ってこないというのがまず一つとしてあるんですけども。

逆に先ほど、若い女性が下に見られるみたいな、そういった例を挙げましたがけれども、多分そういったイベントとかコミュニティに参加してくる人って、そういう人ってあんまりいないんじゃないかなというのがまずそもそも思っていて、そういうところに自主的に、主体的に参加したいなと思っている若者とか、そういうのは年齢関係なくという感じなので、そこはそんなに心配する必要はないんじゃないかというのはありますね。

逆に、やっぱり文京区って結構、渋谷とか新宿とか都市圏にアクセスしやすいですよ。東京メトロも入っている。なので、やっぱりそういう若者だと、やっぱそっちのほうに流れていっちゃうというのが現状としてはあるんですけども。

けど個人的に、住みやすいというのと遊ぶまちって別じゃないですか。なので、わざわざというか、そんなに無理やり遊びやすくしなくても、今後、私も若いですけど三十、四十とかになって家庭を持ったりとか持たないとかあるんですけど、そういった人生のライフステージ

に依りても住みやすいまちのほうが、私的には魅力あるものかなというふうに考えています。
回答になっていますかね。という感じです。

【ファシリテーター】

ありがとうございます。じゃあ全年齢、広域に住みやすいというのが魅力ですかね。

【参加者】

そうですね。それはちょっと難しいのかもしれないんですけども、住みやすさで言えば、結構23区内の中でも良いほうで、若者から見ても良いとこなのかなとは思ってはいるんですけども。

【参加者】

住みやすさとか利便性とかそういうものは、多分どの世代から見てもそう感じるんだと思うんですけど、じゃあそれ以外ってなったときには、やっぱり最初に言ったように年代とか世帯がどうか家族構成とかによって、やっぱりそこに入ってくる情報も違いますし、子どもがいるご家庭であれば子どもを通して、もう既にそこに小さなコミュニティがしやすいし、情報が入ってくるとなりますけれど、単身世帯だとそういうのもなかなか自分に取りに行かない限りは、なかなか自然には誰かから聞くということはまずないので、そういうところでコミュニティというか地域にいる感覚は私もないんです。私、今住んで8年目ぐらいですけど、私、単身なので、要は地域の一員という感覚はないんですよ、正直言うと。だから、それがこの状態で私、多分恐らくこのまま文京区にいると思うんですけど、何か年齢を重ねてそうなったときは寂しいんだろうとか。そういう感覚ですね。出身でもなくて、単身となると。

【ファシリテーター】

全年齢期広域って感じですよ。広い年齢、ごちゃまぜなみんなが家族みたいな。

【参加者】

ごちゃまぜである必要は私もないと思います。ある必要はないと思うし、やっぱり無理じゃないかなってちょっと思う部分がやっぱりあって。けども、そういう人とつながるという、そういうきっかけがあってもいいんじゃないかなと。同じような境遇、境遇というのもあれですけど、同じような何かそういうのも。

【参加者】

銭湯、いいですよ。

【参加者】

銭湯ですか。

【参加者】

毎週行きますけど。あんまりやっぱり若い方はいらっしゃらなくて自分より上の方たちと接することが多いですけど、でも地域の一員だなんて実感しますよ。

【参加者】

銭湯に行くと。

【参加者】

道で会っても、逆に素っ裸じゃないと分かんなかったりして。服を着ていると分からなかったりするんですけど。

【参加者】

そうなんですね。

【参加者】

毎週行くと大体、決まったメンバーが来ているので、いろいろ楽しいです。

【ファシリテーター】

交流の場ですね。そこにチラシがありますけど、東京都の銭湯組合の皆さん仲がいいらしいので……。

【参加者】

二つ潰れちゃって。

【ファシリテーター】

まめに通わないとなくなっちゃうので行きましょう。

【参加者】

仕事の帰りに寄れるいい銭湯があったんですよ。それがなくなっちゃったんでね。

【ファシリテーター】

話を混ぜて掘り下げたってなった場合に、やっぱり全年齢域のコミュニティなのかなというふうに、私は感じましたが、いかがですか。

【参加者】

この10年ぐらいで、私は超アナログなんですけど、どんな企業でも何でも公式LINEへって言われるともうその時点で、あってなっちゃうんです。

【ファシリテーター】

やっていないんですか。

【参加者】

L I N Eをやらないので。なので、何か入り口をもうちょっと間口を広げてほしいなと思います。L I N Eだけじゃなく。

もうその時点でシャットアウトになっちゃう。この世界に入っていけなくなっちゃうので。

【参加者】

逆にどのようなそういうデジタル系の手段ならば見たりされているんですか。

【参加者】

ホームページぐらいは見ますけれど、家でタブレットを見るのは好きなんだけれども。

何でもかんでも最近、公式L I N Eとなると、もうああさよならとなっちゃうので。

【参加者】

僕からすると、ホームページって自分で調べていかなきゃいけないじゃないですか。

【参加者】

そう、自分の興味のあるもの。

【参加者】

L I N Eだと自動的に。

【参加者】

それが嫌なんですよ。

自分の興味のないものが勝手に入ってこられるのが鬱陶しいんです。自分が好きな情報を自分で取りに行きたい。その情報を取りに行こうとしてこれが出てくると、ああもうそれ以上深く知れないしそこに参加できないとなっちゃうので。

あとさっきお若いんだなと思ったんですけど、遊ぶまちと住むまちは、だんだん一緒じゃないとしんどくなってきます。遊びにどこかまで行くということはしなくなります。なので、歩いて行ける距離に何かちょこっと飲めるお店があったらいいなとか、そういうふうになっていくんですね。

【ファシリテーター】

はい、〇〇さんどうぞ。

【参加者】

やっぱり、〇〇さんのお話で私もすごく思うのが、さっきの年寄りが若い女性を下に見るとかそういうすごく高圧的なという、まさに町内会的なイメージですよ、失礼ながら。文京区の実態がどうかは分かりませんが、今、どんどん変わろうとしているのも耳にはしているし、若くしてそういう活動に参加してやっているのを知っているけれど、やっぱりコミュニティと

という言葉がちょっと、ネガティブなイメージを生みやすいと思っていて、コミュニティって聞くと、私を知る範囲だとよくあるコミュニティセンターのイメージは、まるで習い事をしに行くイメージ。

【ファシリテーター】

カルチャーセンターですか。

【参加者】

カルチャーセンター的なイメージを持つ人とか、それからさっきおっしゃっているような町内会に代表されるようなちょっと年寄りの集まり的な、年功序列なのか何なのか分からないけれど、そういう人がいるとかという、そういうやっぱりちょっと固定的なイメージってどうしてもつきやすいものなので、あえて私が場と呼んだのはそこなんですね。

しかも、人が集まっているということじゃなくてもよくて、何度も言うようにお店でもいいし、学校も場だし、学校の中にも幾つもの場があるだろうし、そういうイメージという、ちょっとコミュニティというのを少し崩して考えたほうがいいんじゃないかなというのは思います。

ホームページのところでおっしゃったように、ホームページは、例えばですよ、私が一つ場をつくって社協さんのふれあいいいきいきサロンの一つをやっているんですけど。

【参加者】

社協さんのホームページに行くと、ざーっとそういった活動が載っているわけですよ。その中に写真1枚と数行の説明があって、それで入る気になれますか。

【ファシリテーター】

確かに。

【参加者】

なわけですよ。

【ファシリテーター】

字だけで。

【参加者】

そう。だから、自分で探しに行って選び取らなきゃならないって面倒くささと、LINEのように関係ないものでプッシュされちゃうという打算。そういったものがあるので、まさにそういう声をうまく集めて1本に絞るんじゃなくて、複数の読み方を作ってコミュニケーションしていく。その中に口コミがあってもいいだろうし、何かポイントリワードみたいなのがあってもいいだろうし、うまく組み合わせていくこと。しかもターゲットに合わせてそこをやっぱ

り分けていくような形で、私は場というイメージで考えていかないと。

なので、必ずしも町内会だってすごく若い人が頑張ってお祭りとかやっているのもあるでしょうし、だからそういう特徴を知らせる、伝える手を考えるだろうし、それに相性のいい場とつながってお互いに利用させるとかというのがあるだろうしということで、何しろ場なんですよ。

【参加者】

私、区報のこんなちっちゃい記事で今日ここに参加しましたよ。よく見たんです。

【参加者】

よく見つけましたね。

【参加者】

私、区報においては、もう隅から隅まで見ています。

【参加者】

すばらしい。

【参加者】

もう一語一句逃さず読んで、自分が行けそうなものは全部エントリーして。

【ファシリテーター】

すごいね。熱心だね。

【区長】

それはうれしいね。最近、区報ぶんきょうをやめろという声が続けて来ているので。この環境の時代にもやはり紙の需要はあるんですね。

【参加者】

紙での配布がなくなったら困る。

【ファシリテーター】

全年齢、見られますからね。

【区長】

それは我々としては、たくさんの人に情報を届けるため、媒体を複線化する必要があるわけです。

【参加者】

そうですね。

【区長】

SNSもいろんなのをやっているし、当然ホームページもあるし、当然紙媒体も必要だし、いろんな入り口をつくっているんですけど、来る声は好き嫌いですから。

【参加者】

今、紙文化をなくそうということ自体には反対はしませんが、楽しみに待っている人もいるんだなということは、忘れないでいただきたいです。

【参加者】

いいですか。

【ファシリテーター】

はい。

【参加者】

今、すごい〇〇さんの声を聞いて面白いなと思ったんですけど、LINEはプッシュ型で届くのが嫌なんだけれども、紙がポストに届くというのはいらないんですか。

【参加者】

自分のワクワクするものが載っているんじゃないかなと思うので。

【参加者】

それがLINEで個別にパラパラ届くと、それはやめろみたいな感じになるんですか。

【参加者】

スマートフォンというものの自体が嫌いなんです。私、だから仕事的时候は仕方がなく持っている。もし仕事していなかったら、多分スマートフォンを持っていないと思います。

【参加者】

パソコンもガラケーも持たないんですか。

【参加者】

ガラケーにしたいぐらい、今から。ただ、仕事の関係上、今、災害のときとかの緊急連絡みたいなのをインターネット上に入力しなきゃいけない、会社で登録しなきゃいけないので、仕事をするイコールスマホを持たなきゃいけない文化じゃないですけど、仕方がなく持っているんです。なので、休みの日はもうバッグに入れっぱなしだし。

【参加者】

ガラケーならオーケーということでしたら、ガラケーにメールが届くぐらいなら大丈夫なんですか。

【参加者】

自分が登録した人からだけなら。

【参加者】

その文京区からのメールが届くぐらいなら。

【参加者】

だったら大丈夫。

【参加者】

メールマガジンならオーケーみたいな感じですか。

【参加者】

自分が登録していれば。

【参加者】

ちなみに、私も今回ここに参加させていただいたのは、区報の紙を読んでなんですけれど。私も区報を紙で読んで、LINEも登録してという感じなんですけど、やっぱり1回に大量の情報が届きつつも通知は1回分で済んで、自分である程度網羅性を持って見ることができるので紙の区報はありがたいなと思っています。

あの情報が個別のLINEで全部通知で来たら、100通知ぐらい来るのかなみたいなそういう感じになるじゃないですか。それは勘弁してくれってなりますし、かといって自分でウェブサイト行って情報を拾えというスタイルは、それはちょっと不親切なので、マルチチャンネルで持っていくというのが必須なのかなというふうに思っています。

【参加者】

付け足しさせていただいていいですか。

【ファシリテーター】

はい。〇〇さん、どうぞ。

【参加者】

付け足させていただくと、区報ぶんきょうには土曜日の当番の病院も出ているわけです。本当に体調が悪いときに、スマホとかタブレットを持ってきてこんなことをやってられないんですよ。どこどこってなっているとき、紙だと一発で分かるじゃないですか。自分の近所とか。そういう意味でもやっぱり大事なんですね。そこに出ているって知っているから。ワンアクションで見られるじゃないですか。

【区長】

何年か前に、ちょっと話がずれちゃうんですけど、台風19号というのが東京に上陸した

ときに文京区に被害が出るんじゃないかっていって大騒ぎをしたときがあって、その数か月前に紙のハザードマップを全世帯に配ったんです。

【参加者】

持っています。

【区長】

ところが、マンションの管理員さんに聞くと、その週の紙ゴミの日は山積みで捨てられていた。結局、台風19号のときはホームページがダウンしています。みんなそこでハザードマップを開こうとするんですよ。だけどあなた先々月、配ったのを取っておけばそれで済むんでしょ。だからそれはアナログとデジタルのよさ悪さ、マルチじゃないと駄目だということですね。

【ファシリテーター】

やっぱり最後は、地震のときもそうだったと思うんですけど、電源が繋がらなければテレビも見られないし、やっぱり紙になるという。

【参加者】

しかも、さっきも言いましたけどワンアクションじゃないですか。ここに出ていると知っているからぱっと見て。本当に病気になったことない方には分かっていただけないかもしれないんですけど、発作が出たら病院に行って、何でよりによって土曜日の夜みたいな、そういうときにぱって開けてぱって見られたらすぐ一発で電話できるし、そんなときに検索なんかやっていられないんですよね。やっぱりスマホはどこに行ったから始まっちゃうんで。

【ファシリテーター】

本当ですよ。

【参加者】

マルチチャンネルみたいなキーワードが出たと思うので、その対象が年齢とか暮らしとか住居とか幾つか出ていますけれども、もう一つ性格みたいな、その人の性格みたいな対象ってあると思うので。要は、いわゆる陽キャと陰キャみたいな。こういう場に来ている時点で、我々は陽キャ属性なんじゃないかなと思うんですよ。こういうところに来られるので。来られないタイプの方というのもしらっしゃるじゃないですか。そういう方って、結局コミュニティでやっていますけれど、こういう場を用意しますと言ってもいらっしゃらないと思うんですね。私には関係ありませんというか、むしろそういうところに来たくない。そういうところに参加される人とは関わられませんみたいな方もいらっしゃるので、マルチにチャンネルを持っていくと

いうと、陰の方々に対してもどういうふうに情報をアクセスさせられるか、その人たちからどういうふうに声を吸い出せるかといったところも考えていく必要があるのかなというふうに思っています。

【ファシリテーター】

本当ですよ、自分で選びたいですよ。世の中がどんどんあっちにいつっちゃうから。みんながやっているわけじゃないんだよということです。

【参加者】

どうしても民主主義社会という時点で、みんな参画しろよというのが前提にはなっちゃうので、民主主義社会の一員として声を出せというのは、強い人の声としては正しいというか、かぎ括弧つきの正義みたいな感じになっちゃうと思うんですけど。でも、言えない人がいてもいいんだよというのが多様性社会であり、民主主義社会かなというふうに思うので。でも、そういう人たちの声をどうやって吸い出すのかなと考えたら、ロコミとか、そういう方でもアクセスできる、陽の人につなげて、そのような人から陰の人がこう言っているよみたいな感じで広めていくとか、あるいは陰の方であっても別にデジタルデバイスでAIに向かってなら何か言えるかなとか、そういうのはいろいろと考えられることかなというふうには思います。

【ファシリテーター】

これ、全部書いてほしい。できれば書いてほしいんです。〇〇さんもよろしければ。〇〇さんも〇〇さんも。もう録音にしか残らなくなっちゃうので、目で見えたらいいななんて思って。陰キャと陽キャですよ。

【参加者】

そうですね、書いていただいて。ありがとうございます。

【ファシリテーター】

つまり、いろんな人がいるということですものね。多様性が重要で、マルチチャンネルで。そこが活力と魅力あふれる住み続けたいまちを創っていくためにできること、そろそろ…。

別にまとめる必要はないんですけども、どんどん案を。広域の年齢で、マルチチャンネルで、活力、魅力あふれる住み続けたいまち。このままずっといてください、文京区にという、何があったらいいかな。このまま結婚して、文京区に住むとか。

【区長】

そこ、いいですよ。そこを聞きたいですね。住み続けたいポイントって何ですか。

【ファシリテーター】

聞きたいですね。

【参加者】

それ、一人1個ずつ、自分が住み続けたいくなるポイントって出したいですね。

【区長】

今、住みたくて住んでいる。選んでここに住んでいるかというところが出発点ですね。

【参加者】

たまたま。

【区長】

僕もたまたまです。子どもが生まれたから。それが住み続けている理由です。

今がたまたまだったというのも回答の一つだと思うんですけども、別に来年いるかどうか分からないというのも回答の選択肢だと思います。

【参加者】

ご先祖に呼ばれたみたいナ。

【ファシリテーター】

そうなんですか。ルーツ。

【参加者】

ひいひいおじいちゃまが本郷とかに。先祖に呼ばれたって、今、お彼岸だし。

【ファシリテーター】

まさに先祖の口を借りて。

どんどん住み続けたいくなるポイントがたくさん出てくれたらうれしい。

【区長】

〇〇さんの「安心・安全」というのは、それは、2年前のときもこれが選択肢。それとも、実際来たらこうだった。

【参加者】

そうですね。東京に来たの自体が2年前なので、やっぱいろんな区とか行ってみても、すごい住み心地がいいなとは、文京区は感じますかね。

【区長】

港区とかもあるわけじゃん。

【参加者】

あと、何かすごい高いビルとかそういったのがないじゃないですか。東京23区内の中に比べれば、比較的。僕はそっちのほうが何か、もともと長野県出身ということもあって、そういう風景のほうがただ何か安心するというか、心地がいいというふうに思っちゃうので。

【参加者】

緑が多いですね。

【参加者】

本当に緑が多いなというのは思いますね。23区内の中では。

【ファシリテーター】

〇〇さんも。

【参加者】

はい。私は歩いて大体のニーズを満たせるというところで、ここにずっと10年おります。毎週、必ず図書館に1回は行くというのとか、あとはスーパーもすぐ近くにあるとか、もう本当に大体自分が満足できることってこの辺で歩いて行けるかなと。不満があるとしたら、おっしゃっていた銭湯がちょっと遠い。茗荷谷までここからだに行かなきゃいけない。こちら辺にも昔、銭湯ってあったんです。

【区長】

並びにあった。

【参加者】

そう、そうです。ここの並びにまさにあったんですけれど潰れちゃって。だから、スーパー銭湯なんかは板橋区のほうまで行っているんですけれども。

【参加者】

僕も先々週、行きました。

【区長】

銭湯好きが多い。

【参加者】

ああ、1週間無事に平和だったなって毎週行って。

【ファシリテーター】

ご褒美しながら自分を癒やし。銭湯がこんな人気があるとは。

【参加者】

もう、どんどん潰れちゃうので。

銭湯でよくお会いする、名前も全然分からない方たち、毎週会う方たちが、孤独にならずに済んでいるよねという話が。みんなそういう目的で来ていると思うよという話に、この間たまたまなって。

【ファシリテーター】

生存確認のような。

【参加者】

そうです。生存確認。あの人この間、具合が悪くて倒れたんだよとか、そういう情報も共有できて、気をつけなきゃねと。

【ファシリテーター】

〇〇さん、どうぞ。

【参加者】

私は、これは本気です。人とのつながりがあって、この土地に愛着があると。私、越してきて9年なんですけれど、娘の同級生の子たちを集めて遊んだりしてるうちにパパ友、ママ友とも仲よくなって、区の外からも来てくれるような形にどんどんなって行って、一緒に遊んでいるということでそのつながりがずっと維持できているくらい楽しくて、それ以外にもだんだん、私、そういうつながりの活動を始めて、それがあると。

それで、何で楽しいんだろうなと思うと、多分こうなってほしいからなんですね。さっきの急に土曜日の病院というのもそうですし、さっきそのうち変わるのよというのがあって、今、想定していない何かがこの後起こる。例えば、中学受験もあるでしょうし、さっきも挙げたような不登校もあり得るかもしれない。そういった不測のことが起きたときに、急に孤立するんですよ。独居老人だけじゃなくて。急に放り込まれて、そうなったときには情報を探しに行く能力も落ちてしまうので、そのときにずっと相談できる、ずっと声をかけてくれるようなつながりができているということが、何か起きたときにとっても大事なんじゃないかというのが、今いるこの土地への愛着をだんだん深めているんじゃないかと思っています。

【参加者】

〇〇さんに一つ、付け足させていただきます。私、今、文京区の手話の講習会、受講しているんですけども、その手話の講習会を受けるようになって初めて自分にも起きることかもしれないという目線を持つようになりまして、自分に起こり得るかもしれないんだという目で見えるようになって、また違うものが見えてくるんですね。

【参加者】

いろんな意味で先輩がいるんですよ。

【ファシリテーター】

私ヨガに毎週、通っているんですけど何の脈絡もない方たちとすごく会えるんで楽しいです。銭湯と一緒にです。

【参加者】

名前も知らないしみたいな感じで。

【ファシリテーター】

〇〇さん、どうぞ。

【参加者】

私は、もう本当にたまたまで、前の職場に通いやすいところで、ちょっと広くて探したらここだったというだけの、本当にたまたま文京区だった。もともと私、豊島区だったんですけど、むしろ豊島区内で引っ越したいと思っていたぐらいで探してもなかったんで、ここだったというぐらいのことなんですよ。

【区長】

2万円ぐらい違うでしょう。

【参加者】

そうなんです。家賃にすると、やっぱり広さを求めると文京区にしろ、豊島区にしろすごい高くなっちゃうので、じゃあ買ったらどれぐらいだろうって思ったときに、結局、売りに出していたのがここで、だったら買ったほうがいいなというので買ったので、もう住み続けることは確定なんですけれど。

やっぱりこの魅力が、やっぱりもうちょっと何かイメージ、私、あんまり行ったことないからあれですけど、吉祥寺って割かしみんな人気で住むけど、都心からは離れているじゃないですか。あそこの住みたいランキングとかもいつもあるし、あそこはあそこでもう完結するんだと思うんです。

【ファシリテーター】

そうなんです。電車、乗らないで済んじゃうんですよ。

【参加者】

だから、多分そこにはきとお年寄りもいるし、若い人も好きで住んでいるから、何かそういうイメージが文京区にはないんですよ。私、どっちかというとやっぱり正しい感じ。神社とか教育とか、全てが正しい感じのイメージなんですよ。

とにかく何かこう、何ていうんでしょう、やっぱりちょっと収入もそれなりにある人が住んでいて、教育の中身はともかく、イメージとしては正しい教育がなされていて、きれいで、でもごちゃごちゃしてなくて、都心にあるというだけの、いいまちというだけな印象で、吉祥寺とかの話を聞く、ちょっとしたワクワク感みたいなものがないんですよね。だから、そのワクワク感が何かしらの場で出たりとか、やっぱり若い人が行くようなお店に行きたいということではないんですけど、やっぱりちょっと何となく、ちょっとのぞける場所というのがあんまりない気がする。どっかに行かないと何もないというか、ちょっとぶらっとできないというんですかね。ぶらっとできてちょっとお茶でもしようかなという場所が、特にこの千石周辺でない気がするんです。

【参加者】

巣鴨の商店街的な、ああいうのがいいですね。

【参加者】

そうです。

【参加者】

距離もちょうどいいんですよね。

【参加者】

そうなんです。だから巣鴨の商店街とかは、逆にちょっと時間が潰せるんですよね。お店がずらっとなっているので。何かそういうのがないけど、そういうのがあるととっても楽しいだろうなって。

【ファシリテーター】

関口のほうの地蔵通りとか、すごく楽しいですね。

【参加者】

あれだとちょっと小規模過ぎる。

【区長】

そうなんだ。

【参加者】

ここからだと、そこに行きにくいんですよ。文京区って広いので、やっぱりその辺まで行くと本当にアクセスが悪いので。

【参加者】

なかなか文京区は、横方向の移動が。

【参加者】

そうなんですよ、そこ。

【参加者】

あと、Bーぐるも一方通行なので。

【参加者】

そうなんですよ。だからそれがあるので、私、そっちのほうとかは行ったことないですし、わざわざそこにぶらっと時間を潰しに行こうかなという気にもならないというか。何か公園とか、この周辺にそういうものがあつたら、もうちょっと魅力的だなと思ったりするんです。

【参加者】

一つ、ちょっと難しかったなと思うのですが、私、しばらく京都に住んでいまして引っ越してくるとき京という文字が入っているのは気に入りました。冗談なんですけど。基本、利便性とか、いろんなそういう事務的なといいますか、事情はあつたんですけれど。あともう一つは、やっぱり大学もいろいろあるので、社会課題を解決してすごくいいまちづくりをする先駆者であってほしいと思って。そういう自分の区が、例えば、日本全国に先駆けてすごくいいまちづくりをしている、例えばこんないい条例をつくったよとか、子どもたちにこんないいサービスしたよとか、サポートの目から漏れている中高年世代の人にもこういういい取組を始めたよとか、何かそういうニュースが重なっていくと、すごくここに住み続けたいみたいな。それが、必ずしも自分ターゲットのものでなくても、すごくこのまちが好きになっていったみたいな感じに思いますというのが一つです。

あと、さっきの〇〇さんの安心安全ということで、一つ、恐らく治安とかのこともさっきおっしゃっていたと思うんですけれど、一つは環境的心理的というのもあるなと思って、環境的というのは、さっき言った水害とかハザードマップとかのことも一つかなと思います。特に、さっき最初も言いましたが、温暖化でどんどん災害、水害、豪雨のリスクが高まっていますし、そういうのが安全だというのは大切なことかなと思いますし、あとは心理的な安全性ということで、例えば最近いろんなところでヘイトスピーチ的なことが割とよく起こるまちとかもちろほらあると思うんですけれども、それがたとえ自分ターゲットのようなものでなくとも、誰々はこのまちから出ていけみたいな感じのメッセージを文京区内で見聞きすると、私も非常に悲しくなるし、文京区がこうあってほしいというまちじゃなくなってしまうかなと思いますので、そういう差別的なこととかは絶対ないような状態にすると。

そうすると、一部の人のための快適とか安心じゃなくて、全ての人にとって安心で安全な場

になるのかなというふうに思うので、誰かの安全安心を守るために誰かを追い出すというのは解決策にはしないような、多様性という話がありましたけれども懐の深い街であってほしいなというふうに思いました。

あとは、私もそういう意味では京都から引っ越して来たので、初めて来たときに今皆さんが関口がとかいろんな地名言っていて、私、文京区の名がよく分からないんです。一応、行ったことあるところとかは分かるんですけど、土地勘がないところは全然分かんなくて、結構、近くのパン屋さんに置いてある文京マップみたいなのを読んで勉強とかしているんですけど、ちょっと歩かないと分からないから、初めて文京区に来た人向けの文京区とはこういう場所だ講座みたいな、そういうのがあるとありがたいなと思います。

多分、似たようなのがたくさんあるとは思いますが、初めて来た人にはちょっとアクセスが難しいような。

【参加者】

この地図を見て散歩するのが私は大好きなので。

【参加者】

これはすばらしい。

【ファシリテーター】

これは都バスで配っているやつですか。

【参加者】

違います。本屋さんに売ってたやつです。

【ファシリテーター】

売っているやつですか。

【参加者】

そうです。

【区長】

結構いい値段するやつです。

【参加者】

地図を眺めているの大好きなんです。

伊能忠孝の子孫かもしれない。

【ファシリテーター】

すごくいいお話、こんなに広がってちょっと貼る場所がないぐらい、こっちに貼らせていた

できます。

では、ピロリンにまとめとしまして、いろいろお話を書いてくださっているのです。

【区長】

なるべくこの会では自分がリードしないということを心がけているんですけども、今日はなかなか話が一つの方向に行かないで、皆さん非常に興味深いお話をいただいたなというふうに思います。

幾つか気づいたところで、やっぱり情報は取りに行かないと自分の欲しい情報は取ってくれないんですね。流れてくるものは、さっきのLINEが1日100通来たらというと、もう多分、誰も見ないという状態になるので、そこはこれからも複線化してやっていきます。それじゃなきゃ駄目だというふうに言われちゃうと、我々はとても身動きが取れなくなるので、いろいろなやり方をしているということでご理解をまずいただきたいと思います。

人と人とがつながるコミュニティで、場というのは、幾つか紹介しているところはあって、社会福祉協議会でやっている地域連携ステーション、フミコム。ここに行くと、本当にいろんな人たちがいます。それで毎週のように講座をやっていて、活動紹介とか。それで、フミコムはそういう人たちとこういうことをやりたいという希望のある人をつないでいる役割も果たしていますので、ぜひ一度、行ってみたいと思います。

社協ではそれ以外にも、高齢者向けのところが多いんですけど、「かよい〜の」とか「つどい〜の」という活動があったりだとか、多機能な居場所というのを文京区で今幾つもつくっていて、実はすぐそこにあります「風のやすみば」とあって、今度、造り直すということもお聞きしていますけれど、多機能な居場所って言葉が難しいんですけど、いわゆる出入り自由で多世代で、一番有名なのが「こまじいのうち」という本駒込にあるところは、朝はゼロ歳児のお子さんを抱えたママさんたちがママ友とおしゃべりにきていて、お昼ぐらいになると高齢者の人たちが出てきて健康マージャンをやったりおしゃべりしたり。夕方になると、小学校から子どもたちが帰ってきてそこで遊んだりとかって、非常に多世代の人たちが出入りをしている場所があって、それも行かないとどんなにいい場所でも分からないんですね。そういうところはこれからも、それはまさに広報課の仕事でもあるんだけど、皆さんたちの興味関心にちゃんと引っかかるような発信の仕方にこれからも努めていきたいと思っています。

最近、実は感じているのは、何ていったらいいんでしょうね、正しいという言葉を使いたくなかったので、その場がいろんなところに出来過ぎていて、本当の場、要は偽物の場、いわゆるネットの世界でいうとフィルターバブルと言うんですか。自分の好きな関心だけで、今だっ

たら「ドジャーズ 大谷」って入れれば、もうヤフー検索がずっと、毎日ここから1週間ぐらいドジャーズ大谷のネタばかりずっと来ていて、それが今一番のヒットなんだというふうに思っただけというものがフィルターバブルですね。その人たちだけで勝手に共鳴し合うのがエコーチェンバーという、実はそれが文京区でも起きているような気はしますね。

私も区政をお預かりして18年になりますけれど、この数年、攻撃的な人がすごく増えた気がします。これはAIのせいなのか何なのか分かんないけれど、それをさっきの最初のご提案じゃないですけど、そういうのがAIの中でうまく調整しながら意見集約につながっていくようなことができればとってもありがたいので、ちょっとまた詳しく聞かせてください。

そういう場で、例えば先月、日経、朝日、産経かな。10日ぐらいの間に続けて文京区に中国人が増えている、子どもたちが増えているというのが出たんですよ。あの手のやつが出ると、翌日、教育委員会の窓口には文京区に来たいという中国人がまず並ぶんですね。それは住まなきゃ駄目ですよと言って終わるんですけど、それと同時に、これ以上中国人を増やすなという人たちがすごい勢いで出てくるんですよ。それが、まさにフィルターバブルとエコーチェンバーのことで、その人たちがその人たちだけで盛り上がってすごい攻撃をするんですよ。これ以上増やすなとか。それっていいんですかって、本当に住む場としてというのが思っていて、そういう雰囲気にならないように相互理解ができる。

昨日、聞いてきた話でいい話だなというのが、相利共生という言葉が生物学にあるそうで、クマノミとイソギンチャクの関係ってよく言われるんですけど、イソギンチャクは毒があると。だけど、クマノミは表面に毒を拒否する物質が出ているので、外敵から身を守る場としてイソギンチャクの中に入れるけれども、クマノミがウロウロしてくれることによって水が循環されて、イソギンチャクは逆にきれいな水で生活ができる。これ、相利共生って生物学で言うんだんですけど、多分、地域って、本来はそういうところなんだろうと思うんですよ。そういう文京区にしていくために、今日みたいな場も、今日も本当にここに来ていただいただけで、まずは何か扉を、ハードルを一つ越えていただいたんだと思うので、ぜひ次の場を見つけて我々もご紹介するように務めますが、たとえば省エネ、断熱、再生可能エネルギーなんかは、実はすごく最近増えていますよね、文京区の中でも。だから、ただそれが、ほかの人たちに理解してもらうためには、フィルターバブル化しちゃ駄目なので、その人たちだけで。なので、いろんな人たちに理解してもらえる場づくりというのを、我々も努力をしたいと思いますし、皆さんたちもこれからもこういった機会にご参加をいただければありがたいと思います。

【ファシリテーター】

ピロリン、ありがとうございました。

スタートの目標が多くのアイデアを出すということだったので、別に何かをまとめる必要はないということで、こういったテーマでここまで幅広い年齢の域でたくさん出せたというのがすごく意味があって。初めて会う人ばかりで交流が持てたということにすごく意味があったんじゃないかなというふうに思いました。

皆さん、ご参加ありがとうございました。

【広報課長】

お時間となりましたので、これにて、本日のダイアログカフェを終了とさせていただきます。